

国文学研究資料館報

第54号
平成12年3月

日本文学翻訳への関心 第23回国際日本文学研究会運営に関わって

山口 博

国際的カラーを持つ東方学会、日本比較文学会等の学会が、日本文学についての国際研究会を開催するのは、学会の目的から当然のことである。

昨今、学会以外に国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館等の諸研究機関が、いずれも日本文学を核とするか、類縁的関係で取り上げるかして、国際研究会を開催するようになった。

いずれもそのテーマ・内容・視点が国際的であるだけではなく、国内外の研究者の参加という面においても共通している。

このように、各種の研究機関がメインイベントとして国際研究会を開催するようになった今、先

駆的役割を果たしている国文学研究資料館の国際日本文学研究会は、第二三回を迎えた。

この国際日本文学研究会への関心度の測定は、参加者と研究発表申込者の人数が最も客観的であろう。

初期に比較して、参加者数はやや減少気味にはあるが、研究発表申込者数は著しく増加している。

参加者数の減少は、先に挙げた同類集会增加、日本文学に関する既存諸学会の国際化、学位取得の困難による留学生の減少等々、様々な要素の競合と思われるが、そのような状況の中で、本研究集会の在り方についての再考を迫られているのかもしれない。

その意味で、二〇回に及ぶ自由

次一	日本文学翻訳への関心 山口博	1
一	国際日本文学研究集会報告	3
	文庫紹介32・専修寺	3
	「文化財の流出」の発想を捨てて	4
	松野隆一	4
	古典連続講演のお知らせ	5
	公開講演会及び展示の報告と予告	6
	シンポジウム コンピュータ国文学報告	7
	新取和古書抄 平成十一年	8

一	国教寺資料調査について 橋本博志	9
	特別共同利用研究員の人入れについて	10
	夏季セミナーのお知らせ	10
	共同研究・人事異動ほか	11
	会報	12
	公開データベースの無料化について	14
	阪東講院セミナー刊行中	14
	利用者へのお知らせ	15
	平成12年度春季学会	16

テーマ発表の積み重ねに立って、更に特定テーマの深化を図る趣旨から、平成九年度の第二一回から総合テーマ設定を試みたのは、注目してよいであろう。

総合テーマにどのような独自性を出すか。「人間と文学」「宗教と文学」という魅力的なテーマも検討されたが、他の機関の国際集会でも行われている。国文学研究資料館という性格上、包括的テーマでありながら個別的な具体性も持たせる必要がある。

委員会で多くの討議を経て、平成九年度以来総合テーマとして「境界と日本文学」を掲げ、それぞれサブタイトルとして「ジャンルの交流」「日記・手紙の視点から」を掲げ、一一年度は「翻訳とその周辺」で開催した。

日本文学のグローバルな研究で避けられないのが、翻訳の問題であり、文学観・思想・言語の異なりという境界を越え得るのか、越

え得ないのか重要な課題である。それを反映してか、各発表ごとに実に活発な質疑応答が展開された。タイ国における日本文学の翻訳状況を初めて紹介した発表者の周りには、発表後も質問者が絶えなかつた。テーマ設定の重要性を改めて自覚したのである。

多くの日本文学研究者を外国から受け入れている今日、日本文学の翻訳が重要な課題になるのも趨勢である。それを考える上にも、逆に西欧諸国に派遣された知識人たちが、西欧文学の翻訳を試みていた明治期の問題が顧みられるに至った。

坪内逍遙の翻訳思想、川上音二郎と森鷗外の戯曲翻訳等々、明治期翻訳の問題に集中し、サブタイトルに沿っての湯沼誠二氏の講演も、幸田露伴の文学が中心であった。いずれも単なる翻訳の領域に留まらず、作品の価値そのものにも及んだことは、翻訳という営み

を通しての近代文学史の構築とさ
え思われる成果であった。

翻訳論は、「美辞学」「修辞学」
「文体論」と密接な関係がある。
今回の発表においても、「源氏物
語」の翻訳の困難さは、女性的特
殊性を持つ地の文にありとする文
体論にまで及ぶ発表があった。
「翻訳とその周辺」というサブタ
イトルは、メインタイトルの「境
界」を「文学と文体の境界」とい
う分野にまで拡張することに成功
したのである。

多数の発表応募者の中から発表
者を決定するときに、その発表の
最も適切な場合は、本研究会なの
か、他の学会なのかを、発表者本
人のためにも考えねばならない。

二国間にまたがる影響・典拠関
係等は、本研究会になじまない
わけではないが、具体的個別の問
題になると、テーマによっては例
えば日本比較文学会や和漢比較文
学会が適切である場合もある。

今回の近世の通俗軍談を取り上
げての「翻訳の方法」は、サブタ
イトル「その典拠と翻案の様相」
の「典拠」に比重がかかり、中国
の歴史書に典拠を探る発表の感が
あった。発表内容の評価は別とし

て、本研究会の発表として適切
であったかの問題を投げかけられ
たように思われる。

翻案に国際政治状況の反映を見
るとする発表が、二編あった。一
つは韓国併合の一九一〇年八月直
後の一〇月に、川上音二郎により
上演された「アルトハイデルベル
ク」の翻案「新国王」に、当時の
日韓両国の政治状況の認識を読み
とろうとする発表、一つは日本の

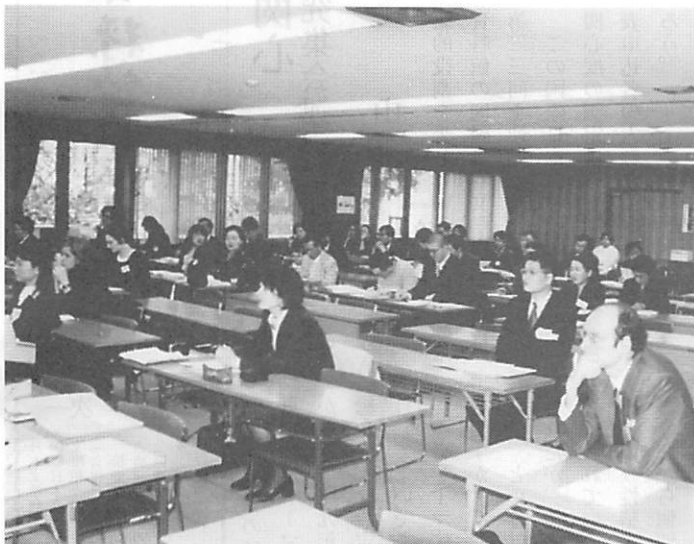
植民地時代の台湾の「日本語文学」
に見られる、他に例のないあまり
にも異常な翻訳の問題である。

「翻訳」をサブタイトルに定め
たときには、翻訳または翻案がこ
種の国際政治状況に踏み込んだ
発表を予想していなかったが、当
に「翻訳の周辺」である。

谷崎の小説の映画化の問題も確
かに映像文化への「翻案」であり、
「翻訳の周辺」への新たな提起で

あった。平成一二年年度のサブタイ
トルが「画像と言語表現」と決め
られたのも、映像文化への翻案が
ヒントになったのかもしれない。

懇親会においても、熱のこもつ
た話し合いが続いた。参加者それ
ぞれ、無限に広がる翻訳の問題に
感動したであろうことをもって、
委員の一人として喜びを感じてい
る。(国際日本文学研究会委員
会委員・聖徳大学教授)



第二三回国際日本文学研究集会

は、平成一二年一月一八(木)一九(金)の両日、当館において開催されました。参加者は例年よりやや増えて、一〇七名(うち外国人五一名)でした。レセプションを含め、活発な討議と情報交換が行われました。プログラムは以下の通りです。

* 研究発表

◆「通俗唐玄宗軍談」の翻訳の方法―その典拠と翻案の様相―
熊慧蘇(文教大学大学院)

◆「定家卿百番自歌合」の「春部」について
―和歌の配列をどう読むか―
アンドレア・ラオス(フランス国立東洋言語文化研究所博士課程)

◆源氏物語の叙述体の翻訳における問題
ソーニャ・アンツェン(アルバータ大学教授)

◆実用主義の翻訳から芸術言語の翻訳へと―芸術的翻訳思想の誕生とその周辺―
鄭炳浩(筑波大学大学院)

◆「新国王」に現れた韓国観
―「アルト ハイデルベルク」

との比較において―

◆李応寿(世宗大学校副教授)
―森岡外訳ストリンドベリ

◆「償鬼」から消えたエロス―
長島要一(コペンハーゲン大学アジア研究所長)

◆文化の翻訳としての映画物語
―谷崎潤一郎「肉塊」論―
張栄順(筑波大学大学院)

◆台湾の「日本語文学」における翻訳の装置
李郁蔥(広島大学大学院)

◆タイ語訳の日本文学
カンラヤニー・シタスワン(チュラロンコン大学助教授)

* 公開講演
◆露伴の時代
―日本近代文学史における翻訳とその周辺をめぐって―
湯沼誠二(北海道教育大学教授)

◆題詠の翻訳
―頓阿の歌をめぐる―
ステイーブン・カーター(カリフォルニア大学アーバイン校教授)

これらの内容を収めた会議録は、三月刊行予定です。
(研究情報部情報資料室)

文庫紹介 32

専徳寺

専徳寺は、広島県三次市に所在する浄土真宗本願寺派(お西)の寺院。江戸中期には、学僧として名高い古貫和上が住職を勤めた。その縁により、当時の講義ノートに相当する、仮綴装の写本・書き本類を中心に、江戸中期以後の浄土真宗の学問と布教の双方を知るために必須の資料が、そっくりそのまま保存される。

古貫和上の名は、ごく一般の方にはなじみの薄いものやも知れないが、世に安芸門徒と呼ばれる広島県下の真宗門徒や、殊に真宗学を専攻する方ならば、勿論ご存じのことと思う。その伝記は、本願寺派の学僧の事跡を集めた「古徳事蹟伝」(「真宗全書」第66巻に所収)に歴代の勸学と並んで記される。十四歳にして高座に登り、長じて後は本山の学林に学び、明和三年・宝暦八年には、本山の安居で「浄土論註」を講義したという。しかし、学寮の人間にしか通用できない類の羅漢づら学者ではなく、優れた説教の才を有したことも併

記される。

専徳寺所蔵の資料群の特色は、こうした優れた学僧であり、かつ説教を実際に行つた人物の遺品、すなわち近世の唱導材が、実際の唱導の場に出される以前の混沌とした状態で、崩れることなくそのままの状態で保存されるところにある。近世の仏教文学の一群落が、いかように・いかなる事情で、現在の我々が目にするような形態になり得たかを知るための、大きな助けとなる可能性を秘めるもののようなのである。

さて、当館が件の調査に着手したのは、読本研究でこの高名な横山邦治先生のご紹介によるもので、現在は、島田大助氏・杉本好伸氏・長谷川泰志氏・藤沢毅氏ら、広島県に在住の近世文学研究者の諸氏に当館の調査員をお引き受け頂き、文献資料調査を実施している。記して、専徳寺様ならびに調査員の諸氏に御礼を申し上げます。
(文献資料部 和田恭幸)

「文化財の流出」の発想を捨てる

松野陽一

年明けの五日、佐岐えりぬ氏が小山弘志元館長の案内で来館された。昨年度末に、中村真一郎氏愛蔵の日本漢詩文集コレクション八百点（内容については本館報53号のキャンベル助教授の文章が詳しい）を当館が購入したことに對する謝意挨拶のための来訪であった。小山先生は一高以来の故人との親しい立場からの仲介の労をとられたわけである。夫人の佐岐氏からは、コレクションの関連資料として、中村氏が用意していた「詩人の庭 (Arti Poeta)」と題する五章から成る江戸詩史の未発表草稿を寄贈して頂いた（ただし序章のメモでは、江戸の詩の面白さを語るもので「詩史」を企図するものではないと記しているが、誠に綿密で魅力的な創作ノートである。集英社版の同名書とは異なる）。

また、「新潮」連載中に急逝されて中絶した「木村兼葭堂のサロン」の原稿を、単行本化の後に寄贈して下さることを約束された。共にまことに有難いことで、感謝の申上

げようもない。暮末明治を連続の相対して資料収集・研究を開始した当館にとってこの上ない贈物となった。

二月初日、韓国国立中央図書館との二年越しの交渉が実って、日本古典籍資料（旧総督府図書館本の収集作業が開始された。今後毎年百点ずつのマイクロフィルムが収集、利用可能となる。尹館長の大局観に依る所、大なるものがあるが、李貴遠古典籍運営室長の周到な配慮と成果実現への熱意が、困難を克服した。感謝したい。ソウル大学校図書館本（旧京城帝大本）も、年度は越えるが同様にスタートする。この見返りで現在客員教授として着任されている同大の崔承熙先生の日本国内での韓国古代史料の調査・収集も、天理・京大・早稲田等で順調に進み、三月には成果発表の機会を持つことになった。既に三回にわたる研究会で中間発表が重ねられたが、さすが老練な専門家の史料批判は厳密且つ新見に満ちていて、予期以上

の成果となること確実である。

三月初旬には台湾大学図書館の旧台北帝大本の調査（昨年九月に次ぐ）・収集にも入った。前々号で予告した旧植民地所在本の収集は大連の旧満鉄本を除いて、このように具体化し始めたことを報告しておきたい。

当館ではこのほかにヨーロッパ、アメリカでも調査を継続しているが、数年前から基本的な姿勢に変化があったことを記しておきたい。それは、日本人研究者のためだけの調査・収集から、現所蔵者である各国の日本研究者によって利用される資料となることへの意識の改革である。まだ実効が上がるところまで到っていないが、共同調査の態勢も整えることによって、現地研究者が充分に活用して研究に資することになるように努力を重ねて行きたい。

コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所との学術協定も三年を経過し、フランス側からはこの二月のフェルシュール氏で九人目の短期研究者を迎えることになった（長期の客員教授としてはエライユ、ロータモンド両氏が着任した）。一方当館からは、岡、新藤、

上野三教授が講読の担当に赴いたほか、資料調査にも関わって貰ったが、フランスの場合困難な状況にあった共同調査にも漸く着手する機運が生じてきたことは喜ばしい。機の熟することを待つ姿勢も重要であるが、こちらも「文化財の流出」などという意識を早く捨て去ることこそ肝要である。現在海外各国の図書館・個人の所蔵する日本関係書籍は、日本のものではない。ケンベル、シーボルト、アーネスト・サトウが折角持っていたってくれた本、韓国・台湾の図書館が大切に管理保存してきた本は、当館としても正確な書誌情報を持ちたいが、基本的にはそれぞれ別の国の日本研究者が活用すべき資料なのである。フランク先生やビジヨー先生の如き老練な先輩が果された写本・版本を駆使した研究手法を身につけ、現地資料を活用してくれる若手研究者の層が厚くなることを望んでやまない。

論文は日本語以外の言語で活発に書かれることを歓迎する。しかし、用いるテキスト本文は写本版本を縦横に用いるものであってほしい。全ての論文がそうである必要はないが、日本学研究者の増加

がその方向で進展することを望むし、当館の果たすべき役割りも、その線に沿ったものになるべきであらう。

研究の国際化、国際交流の論は

多いが、日本文学の場合、ウェクトルの方向が逆になっていると感ずることがしばしばである。各言語圏毎に、活字本だけに拠らない練達の研究者が多数生まれる環境

を作ることが当館の当面の「国際化」の目標になってよいのではないか。

当面する重要問題である、独立行政法人化、総合研究大学院大学

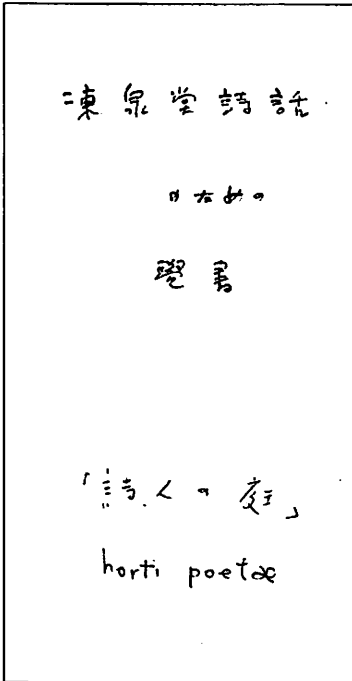
加入、立川移転に伴う組織改革の三点については書く余裕を失った。近々他の手段で現状の報告と見解を述べるので、参照されたい。(館長)

目次

I	十七世紀 (幕府時代) ...	1
II	十八世紀、一 (江戸時代) ...	11
III	十八世紀、二 (安永時代) ...	41
IV	十九世紀、一 (天明時代) ...	71
V	十九世紀、二 (天保時代) ...	131

終結論 一 系録
 人物の年表
 年表
 索引

中村氏ノート 扉(左)と目次(上)



古典連続講演のお知らせ

岩佐美代子の語る「源氏物語」

当館では毎年公開講演会を実施していますが、今回それとは別に、『源氏物語』の連続講演を開催致します。講師は鶴見大学名誉教授岩佐美代子氏です。内容は、これまでの公開講演会と同様に、研究者・大学院生・学生に一般の方々も含めて対象としており、専門的研究的な内容のものとなっております。多数の方々のご来聴をお待ちいたします。日時・題目等は次の通りです。

平成一二年

①五月十九日(金)

皇女の系譜

— 藤壺・秋好中宮・女三宮 —

②九月二十九日(金)

衣裳の描法

— その役割と効果 —

③十一月二十四日(金)

妻三態

— 葵上・紫上・花散里 —

平成一三年

④一月二十六日(金)

夕霧の巻鑑賞

— 普通人の物語 —

⑤三月一六日(金)

愛読する人々

— 鎌倉後期の享受 —

各回三時~四時半(一時間半)

受講人数 一二〇名

申し込み方法

往復はがきに郵便番号・住所・氏名・所属をご記入の上

国文学研究資料館源氏講演係宛

に、郵送して下さい。

5回全部の受講を希望される

方は四月二十四日までに、ある回

のみの受講を希望される方はその

回の三週間前までに、お申し込み

下さい。応募多数の場合は

抽選とさせていただきます。

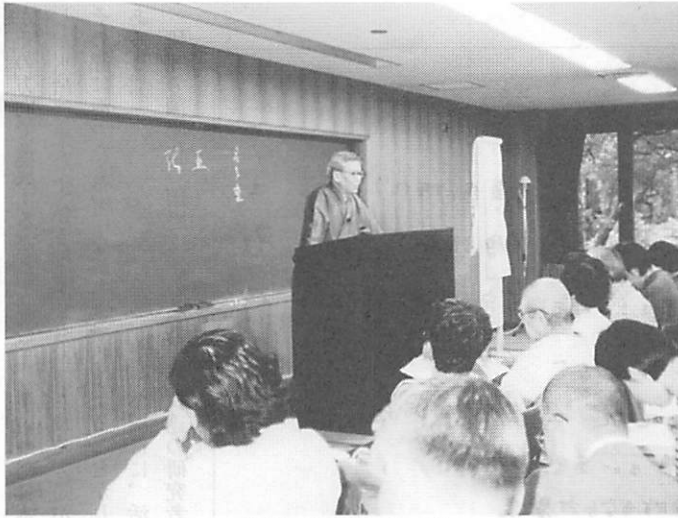
お受講は無料です。

芭蕉自筆奥の細道展報告

昨年一〇月二五日から一二月六日まで、秋季特別展示として「芭蕉自筆奥の細道」展を行った。平成八年秋に発見された芭蕉自筆本『奥の細道』を、関東地区ではじめて展示公開し、それと共に出現した同じく芭蕉筆の『幻住庵記』、『猿蓑』歌仙「市中」の巻、『冬の日』などを含めて、計四四点を展

公開講演会を開催した。聴講申し込みが殺到したため、やむを得ず抽選を行うこととなった。講演会にお出で頂けなかった方々には、深くお詫び申し上げます。なお展示の図録「奥の細道」の軌跡を臨川書店より販売し、既に完売した。講演の内容は、従来と同様に、『国文学研究資料館古典講演シリーズ』として臨川書店より刊行される予定である。

(参考室)



講演 (上野教授)



講演 (雲英教授)

春期公開講演会・展示のお知らせ

平成一二年春期公開講演会・及び展示は、深草の元政上人をテーマに行います。多数の皆様のご来館をお待ち致します。

元政—弱者の奇蹟—

〔講演会〕

日時 六月二三日(金)

一時半～四時半

会場 当館大会議室

講師 成蹊大学教授 揖斐高氏

隆盛寺住職 萩原是正氏

佐賀大学教授 井上敏幸氏

申し込み方法

往復はがきに郵便番号・住所・氏名をご記入の上、国文学研究資料館講演会係宛に、郵送して下さい。(定員先着一五〇名)

〔展示〕

平塚市隆盛寺所蔵の元政関係資料を展示いたします。

日時 六月一九日(月)～三〇日

(金) 九時半～四時半

会場 当館二階展示室

来観自由・入場無料。

土曜日・日曜日は休館。

第5回シンポジウムコンピュータ国文学報告

データベース室長 中村 康夫

毎年恒例のシンポジウムの第5回を、昨年一二月三日（金）に開催した。
源氏物語のCD-ROMが一年の間隔を空けずに三種類も出版されるという偶然の素晴らしい事態を見据えて、「二一世紀の源氏物語研究」とのテーマ設定にした。

源氏物語のCD-ROMが一年の間隔を空けずに三種類も出版されるという偶然の素晴らしい事態を見据えて、「二一世紀の源氏物語研究」とのテーマ設定にした。

源氏物語の本文・現状と課題
室伏信助（東京女子大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

岩波書店版
中村康夫（国文学研究資料館）
（討論）
パネル・ディスカッション「源氏物語研究の新展開」
河添房江（東京学芸大学）
室伏信助（東京女子大学）
伊井春樹（大阪大学）
今西裕一郎（九州大学）
中村康夫（国文学研究資料館）
稲賀敬二（安田女子大学）
司会・伊藤鉄也
（国文学研究資料館）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

源氏物語研究者・CD-ROM担当者五人（室伏信助・河添房江・伊井春樹・今西裕一郎の各氏と中村）が講演やパネリストを務め、約一五〇名の参加者を得た。また、当日は、広島大学とインターネットで結び、パネルディスカッションには広島会場から稲賀敬二氏に参加していただいた。広島会場には、五〇名を越える参加者が集まったとのことである。プログラムは以下に掲げるとおり。

伊井春樹（大阪大学）
九州大学版+勉誠出版版
今西裕一郎（九州大学）

【プログラム】
*午前の部
（講演）
源氏物語とニューメディア
——接点と期待——

内容は、源氏物語の本文研究史



と現在の問題点からスタートして、インターネット上の源氏物語データベースの有用性、CD-ROM刊行による研究の可能性の拡大など、国文学研究におけるデータベース構築と利用について、将来を意識しながら多角的な議論があった。

と現在の問題点からスタートして、インターネット上の源氏物語データベースの有用性、CD-ROM刊行による研究の可能性の拡大など、国文学研究におけるデータベース構築と利用について、将来を意識しながら多角的な議論があった。

CD-ROM出版はそれぞれに優れた特徴があり、利用目的によって使い分けるのが良いように思

電子情報が国文学研究にもますます欠かせないものになりつつあることを実感した一日であった。

新収和古書抄 平成一一年

阿仏のふみ 写一冊

南北朝末から室町初期頃の写。

外題「為家乃御前阿佛のふみ」、扉題「阿佛のふみ」。枳型本列帖装。表紙共紙。墨付本文十六丁。

「乳母のふみ」「庭の訓」とも呼ばれ、阿仏尼が娘紀内侍に教えた書とされる。広本系統と略本系統とがあるが、これは略本系統に属する。奥書はない。現在知られる諸本のうち最も古い書写の伝本である。

伏見院御集 卷子本一軸

江戸初期頃の広沢切模写本。二十紙継。表紙・見返し共雲母刷寫模様。本紙の上下段に金銀切箔・砂子散し。総歌数一一七首。うち百首は「新編国歌大観」所収「伏見院御集」二一六三〜二二六二の百首。残り十七首のうち十五首は「新編国歌大観」未収であり、更にうち十一首が新出資料である。また百首に関しても、自筆原本との相違や、注記など、検討すべき点を多く含む。

徒然草 古活字版 大本 二冊

慶長年間の刊行。每半葉十行、平かな古活字版。料紙は、雲母摺りの下絵入、色変りの裝飾料紙。嵯峨本に先行する、和書古活字版の裝飾本として、極めて重要な資料である。

なお、本書のカラー図版と岡崎久司氏（大東急記念文庫）のご執筆になる詳しい解説が「特別展 光悦と能 華麗なる謡本の世界」（MOA美術館・一九九九年発行）に掲載されているので参照されたい。

職原抄 写一冊

栗皮色無地表紙。外題なし。書写奥書等なし。帙題箋「職原鈔（足利末期古寫本／詳注書入）」。

安保流注釈を承けて成立した富田流の注釈書。「職原抄」本文に書き込みをしたものにさらに、頭注・貼紙などで、冒頭の伝流を示す注をはじめ、多数の注が書き込まれる。室町最末期の成立と思しい。朱による傍線、句読点、注見出しを示す諸点が記される。二

六・〇×一八・六種。墨付一一四丁のうち、貼紙を後補で綴じ込んだものが三十三丁ある。

釈迦の本地 大本 三卷三冊

寸法二七・三×一七・五種。五針袋綴装。題簽欠。内題「釈迦の本地上（中・下）」。

匡郭四周單辺。每半葉十一行。刊記「寛永廿癸未年九月吉日 橘屋／源兵衛開板」。刷りはヤヤ後印。

芭蕉書簡（怒離宛） 一軸

本紙寸法、一五・六×五二・二種。冒頭の二・三字が切除され、宛名・署名・日付をも欠くが、元禄七年正月二十七日付の首沼曲水宛書簡と、形態の上からも内容の上からも深く関係が認められるので、同じ頃、曲水の実弟高橋怒離宛と推定される。最晩年の筆跡として芭蕉の境地を示す重要資料。

武家屋敷饗膳厨房絵巻 一軸

江戸後期成か。武家屋敷に到着する客と、その接待のための厨房の様子を描く。彩色画であるが、色指定が書き込まれているので、屏風などの下絵として製作されたものか。巻頭に「中洲寓居ニ於之

写 對水蔵」とあり「對水」の印。

東海道五拾三隨勝景帖 横本一冊

北斎画、原題簽に「東海道諸全」。狂歌入り小判錦絵「東海道五十三次」の揃い物（享和四年初摺刊行）を、日本橋から京までの五十六回（六郷渡を含む）を順番に版本形態にした絵本。「日本橋・六郷渡・原・鞠子・藤枝・鳴海・宮・京」は柳川重信画か。表紙裏に「前北斎為一画」とあり、この落款を用いた時期や、本藍とペロ藍が併用されている点から、文政後期の後摺りと思われる。

雅論 特大八卷二冊

朝鮮銅活字版（丁酉字）。金茶色に繁艶出表紙。外題墨書。嘉慶四年（一七九九）正祖による編纂・刊行にかかる。朱子の詩文を抜粋したもの。印面やや荒れている。

御定社陸千選 特大八卷四冊

同じく朝鮮銅活字版（丁酉字）。体裁も同じだが、本書は更に大きい。成立も同じ。こちらは杜甫と陸游の五言律詩・七言律詩を抜粋したもの。精印。

願教寺資料調査について

落合博志

文献資料部では平成十一年十月に、盛岡市願教寺所蔵の古典籍および書画類の悉皆調査を行った。願教寺は浄土真宗本願寺派に属し、慶安年間創建で南部家とも縁の深い寺院であるが、明治期仏教界の傑物島地黙雷が明治二十五年に住持となり、養嗣子で仏教学者の島地大等も次代の住持を務めたので、父子二代の蔵書がここに収蔵されているのである。今回の調査は、調査メンバーの岡崎久司氏（五島美術館）が「日本古典籍書誌学辞典」に「島地黙雷」の項目を執筆の際、願教寺に黙雷の旧蔵書について問い合わせたのが機縁となり、現任職島地興霖師の全面的な御協力のもとに実現したものである。

調査に当たったのは文献資料部の岡教授・中野助手・和田助手と落合、また館外から井上泰至・岡崎久司・菊池庸介・土屋順子・村木敬子・渡辺匡一の各氏に加わって頂き、総勢十名で十日間休みなしに実施された。願教寺の蔵書については、大等の歿後に編まれた

「神道集」巻九その他、十数点に及ぶ天海蔵旧蔵本がまず挙げられる。「詠法華廿八品和歌」は明応十年の跋があり、「轍塵抄」の著者実海の詠じた法華経の経文和歌で従来未知の資料。「神道集」は小題に「五十北野天神事」とある。誤写も多いが、赤木文庫本に優る点も見られ、零本ながら有益である。また、法隆寺一切経十軸の所蔵も特記される。うち半数に奥書があり、天平二十一年から、下は保安四年に至る。無奥書の奈良時代写「大般若波羅蜜多経」巻五百六十七は、平安中期頃の白点（第三群点）が全体に加点されており、数少ない「大般若経」の調点資料として貴重なもの。

このほか古写本には、鎌倉初期写「代宗朝贈司空大弁正広智三蔵和上表制集」巻五（高山寺旧蔵）、弘安四年写「谷阿闍梨伝」がある。また応永十七年写「日本紀私見聞」は、至徳三年の本奥書を持ち、春璣本「日本書紀私見聞」と関わる所が多い日本書紀・甕気記の注釈資料として今後検討が待たれる。仏書・神書以外では、江戸初期写「源氏物語」五十三帖、明版「分類補註李太白詩」（写字台文庫旧蔵で、黙雷が大谷光瑞から贈られたもの）が目についた。

岡崎・村木両氏が担当した掛軸を中心とする書画類（総数約三百四十点）にも注目される作品が見出されたが、紙幅の関係で今回は紹介を省く。その他、黙雷や大等の著述草稿類・自筆ノート類も確認された。近代仏教学の興味ある資料であり、別箇に目録化する必要がある。

なお、願教寺所蔵資料は現在非公開で、個別的な閲覧には応じていない。その補いとして、研究上必要度の高いと思われる資料を「調査研究報告」に影印または翻刻の形で紹介して行く予定であり、来年度以降マイクロ撮影も計画していることを付記する。

最後に、御多忙の中を割いて長期にわたり御援助を賜った島地興霖師に対し、改めて深く感謝申し上げます。また、カード謝金なしという条件にもかかわらず、長期間調査に献身して下さった館外の参加者各位にも、厚く御礼を申し上げます。

（文献資料部助教）

特別共同利用研究員(大学院生)の受入れについて

国文学研究資料館では、当館での研究及び研究指導を希望する特別共同利用研究員(大学院生)を募集しております。

詳細につきましては、昨年十二月初旬に各大学院へ送付した「特別共同利用研究員受入要項」をご覧ください。又は、当庶務課共同利用係(電話〇三―三七八五―七一三一内線二一〇・二一一)に直接ご請求ください。

概要

- ・ 受入人数 十名程度
- ・ 受入対象 大学院の修士課程又は博士課程に在学し、日本文学及び日本史学等を専攻し、文献学、書誌学、史料管理学等に関する分野に興味を持つ学生。
- ・ 授業料 無料
- ・ 受入決定 当館大学院教育協力委員において審査の上決定し、その結果を所属する大学院の研究科長及び本人に通知する。
- ・ 研究課題・指導教官(予定)
 - ・ 平安私家集・私撰集の研究

新藤協三

- ・ コンピュータを使った古典研究 中村康夫
- ・ 「源氏物語」の異本と異文に関する研究 伊藤鉄也
- ・ 中古・中世の和歌文学の研究 浅田 徹
- ・ 和歌文学の文化史的研究 松村雄二
- ・ 五山禅林における中国詩の受容に関する研究 堀川貴司
- ・ 中世学問史研究 山崎 誠
- ・ 中世文学の研究、特に能に関する研究 落合博志
- ・ 中世歌人とその周辺に関する研究 田淵旬美子
- ・ 江戸初期の文学と出版文化 岡 雅彦
- ・ 「奥の細道」本文校訂の試み 上野洋三
- ・ 近世学芸史の研究、特に和学に関する研究 鈴木 淳
- ・ 近世文学の研究、特に歌舞伎・浄瑠璃の研究 武井協三
- ・ 草双紙における芸能受容の研究 山下則子
- ・ 近代文学の研究 谷川恵一
- ・ 18世紀後半から明治期にいたる

漢文学・学芸史

- ・ ロバート・キャンベル
- ・ 情報国文学の研究 安永尚志・原正一郎
- ・ 文学情報処理 野本忠司
- ・ 近世史料の研究 高木俊輔
- ・ 近現代史料の研究 鈴江英一
- ・ 近代民間史料の研究 丑木幸男
- ・ 記録史料学の研究 安藤正人

- ・ 近世史料学の研究 山田哲好
- ・ 幕府・藩の組織構造と文書群の史料学的研究 大友一雄
- ・ 近世都市史の研究 渡辺浩一
- ・ 史料管理学の研究 高木俊輔・鈴江英一
- ・ 丑木幸男・安藤正人
- ・ 山田哲好・大友一雄
- ・ 渡辺浩一

夏期セミナー受講生の募集

当館では、国文学と日本史学を専攻する大学院生(修士課程・博士課程)を対象として、毎年夏に、「原典講読セミナー」を開講しております。これは一年をサイクルとする特別共同利用研究員(大学院生)の受入れとは別で短期間のセミナーです。

日程等についてはまだ決定されていませんが、今年も八月下旬に開講の予定です。募集人員は約十五名、応募者が多数の場合は、当館で選考します。受講料は無料(講義資料については、実費徴収)。

講義の内容は未定ですが、担当者、次の予定です。
伊藤鉄也助教授(中古物語)、鈴木淳教授(近世学芸史)、野本

忠司助教授(文学情報処理)、堀川貴司助教授(日本漢文学)、渡辺浩一助教授(日本近世史)。

このセミナーは、平成五年より開講し、受講生から毎回好評を得ています。研究における視野の拡大と深化をはかる貴重な機会として、ふるって応募していただきたいと思っております。

なお、このセミナーの講義は、「セミナー「原典を読む」」「原典講読セミナー」のシリーズとして、平凡社・臨川書店より順次刊行されていきます。(本号14頁参照)

セミナーについての問い合わせ先は、当館管理部庶務課共同利用係(〇三―三七八五―七一三一内線二一〇・二一一)です。

平成12年度共同研究

岩瀬文庫書誌目録編纂のための基礎的研究

塩村 耕 (名古屋大学助教授)

阿部 泰郎 (名古屋大学助教授)

榎原 千鶴 (名古屋大学助手)

服部 仁 (同朋大学教授)

柳沢 昌紀 (中京大学助教授)

林 知左子 (西尾市立教育委員会学芸員)

山崎 誠 (国文学研究資料館教授)

落合 博志 (国文学研究資料館助教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

和田 恭幸 (国文学研究資料館助手)

「謡曲大成」編纂のための謡本の所在調査と系統分類の研究

竹本 幹夫 (早稲田大学教授)

山中 玲子 (法政大学助教授)

樹下 文隆 (広島県立女子大学助教授)

表 きよし (国士館短期大学助教授)

大谷 節子 (神戸女子大学助教授)

石井 倫子 (東京国立文化財研究所調査員)

落合 博志 (国文学研究資料館助教授)

高僧伝の研究

堤 邦彦 (京都精華大学教授)

後小路 薫 (別府大学助教授)

山下 琢巳 (東京成徳短期大学教授)

岡 雅彦 (国文学研究資料館教授)

和田 恭幸 (国文学研究資料館助手)

田安德川家資料による諸道伝書の研究

磯 水絵 (二松学舎大学教授)

宇都宮千郁 (上智大学大学院生)

笠嶋 忠幸 (財)出光美術館学芸員

高城 弘一 (国学院大学助教授)

田淵句美子 (国文学研究資料館助教授)

浅田 徹 (国文学研究資料館助教授)

「芦庵文庫」の研究

藤田 眞一 (京都府立大学教授)

飯倉 洋一 (山口大学助教授)

大谷 俊太 (奈良女子大学助教授)

神作 研一 (金城学院大学助教授)

山本 和明 (相愛女子短期大学助教授)

上野 洋三 (国文学研究資料館教授)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

文部省永年勤続者表彰

文部省永年勤続者表彰規定に基づき、次の方に表彰状を伝達し、

記念品を贈呈した。

○平成11年11月23日

松浦 晃幸 (管理会計課長)

人事異動 (平成11年9月～平成12年2月)

○平成11年9月1日付

カーター スティーブン

(客員教授)

カリフォルニア大学アーバイン校教授

(平成11年9月1日～平成12年3月31日)

崔 承熙 (客員教授)

ソウル大学校教授

(平成11年9月1日～平成12年3月31日)

○平成11年10月1日付

併任

塩村 耕 (文献資料部助教授)

名古屋大学文学部助教授

(平成11年10月1日～平成12年3月31日)

共同研究員 (前号追加)

任期 平成11年10月17日～平成12年3月31日

日本各大学図書館に所蔵されている韓国古文書の調査研究

井上 和枝 (武蔵野女子大学文学部講師)

山内 弘一 (上智大学文学部教授)

吉田 光男 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

李 成市 (早稲田大学文学部教授)

平木 實 (天理大学国際文化学部教授)

崔 承熙 (国文学研究資料館客員教授)

任期 平成11年11月1日～平成12年3月31日

座の文学との中世後期の和歌

荒木 尚 (就実女子大学文学部教授)

伊藤 敬 (藤女子大学文学部非常勤講師)

伊藤 伸江 (愛知県立大学文学部助教授)

岩佐美代子 (鶴見大学名誉教授)

岸田 依子 (昭和女子大学文学部助教授)

齋藤 彰 (昭和女子大学短期大学部教授)

林 達也 (駒沢大学文学部教授)

廣木 一人 (青山学院大学文学部助教授)

カーター スティーブン (国文学研究資料館客員教授)

彙報

委員会日誌

平成11年

9月7日 移転問題検討委員会

(第二回)

9月9日 情報システム専門

委員会(第二回)

9月14日 企画委員会(第二回)

9月17日 原本テキストデータ

ベース監修員会議

(第二回)

9月28日 移転問題検討委員会

(第三回)

10月7日 図書選定小委員会

(第二回)

情報システム専門

委員会(第三回)

10月8日 原本テキストデータ

ベース委員会

(第二回)

10月12日 大学院教育協力

委員会(第一回)

創立30周年記念行事

準備委員会(第三回)

10月15日 国文学文献資料調査

員会議

10月22日 情報システム専門

委員会(第四回)

11月5日 国文学文献資料調査

員会議

(中国・四国地区)

11月10日 共同研究委員会

(第二回)

11月16日 大学院設置準備

委員会(第七回)

11月18日 国際日本文学研究

会委員会(第二回)

12月9日 大学院設置準備委員

会(第八回)

12月14日 図書選定小委員会

(第三回)

12月14日 国際日本文学研究

会委員会(第三回)

12月16日 企画委員会(第三回)

平成12年

1月21日 原本テキストデータ

ベース委員会

(第三回)

1月24日 共同研究委員会

(第三回)

2月10日 国文学文献資料収集

計画委員会

(第二回)

2月17日 将来構想委員会

(第二回)

大学院設置準備委員

会(第九回)

2月22日 ホームページ委員

会(第一回)

3月7日 情報システム専門委

員会(第五回)

3月9日 情報システム委員会

(第一回)

3月21日 貴重書指定小委員会

(第二回)

3月23日 大学院教育協力委員

会(第二回)

運営協議員会の開催について

平成十一年度第二回運営協議員

会が平成十一年九月三十日(木)

に開催され、教官人事、管理運営

の概況について協議が行われた。

第三回運営協議員会が平成十二

年一月二十七日(木)に開催され、

教官人事について協議が行われた。

第四回運営協議員会が平成十二

年二月二十九日(火)に開催され、

管理運営の概況、平成十二年度予

算内示及び科学研究費補助金、平

成十二年度事業計画、平成十二

年度共同研究計画について協議が行

われた。

平成十一年度第二回評議員会が平成十二年三月十三日(月)に開催され、管理運営の概況、平成十二年度予算内示及び科学研究費補助金、平成十二年度事業計画、平成十二年度共同研究計画について評議が行われた。

松野 陽一

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

渡航先

目的	韓国を中心とした旧植民地所在の日本古典籍に関する研究	期 間	平成11年9月17日～平成11年9月19日	田淵句美子	渡航先	ポーランド	目的	第10回欧州日本資料専門家協会年次大会出席及び在仏日本文学資料の調査・研究	期 間	平成11年9月20日～平成11年10月1日	武井 協三	渡航先	イタリア	目的	イタリア日本学会において研究結果の評価を得ること及びベネツィア大学において古今集等のコラボレーションに関する打合せ、実験を行う	期 間	平成11年9月23日～平成11年9月30日	入口 敦志	渡航先	台湾	目的	中国・韓国の漢籍受容の分析並びに総合	期 間	平成11年10月28日～平成11年11月4日	福田 千鶴	渡航先	ポルトガル	目的	ポルトガルにおける日本史料の所在と現状に関する調査	期 間	平成11年10月10日～平成11年10月15日	岡 雅彦・和田 恭幸	入口 敦志	渡航先	中国	目的	中国・韓国の漢籍受容の分析並びに総合的研究	期 間	平成11年11月14日～平成11年12月15日	安藤 正人	渡航先	マレーシア	目的	第二次世界大戦時及び戦後の日本植民地及び占領地における記録史料の取り扱いについての研究実施	期 間	平成11年11月10日～平成11年11月20日	上野 洋三	渡航先	フランス	目的	在ヨーロッパ和本古典籍の研究	期 間	平成11年11月13日～平成12年1月13日	海外研修旅行	鈴木 淳	渡航先	アメリカ合衆国	目的	米国における日本古典籍資料調査	期 間	平成11年11月19日～平成11年9月30日	青木 睦	渡航先	台湾	目的	記録史料の保存に関する研究	期 間	平成11年9月19日～平成11年9月19日	安永 尚志	渡航先	イタリア	目的	ファイレンツェ大学における古今集を対象としたコラボレーション環境の立ち上げ及びイタリア日本文学研究会議参加	期 間	平成11年11月10日～平成11年11月18日	中村 康夫・伊藤 鉄也	渡航先	アメリカ合衆国	目的	米国、特にカリフォルニア大学における人文系マルチメディアアシステムの視察と相互利用の可能性についての討論	期 間	平成11年12月23日～平成11年12月15日	安永 尚志	渡航先	フランス・イギリス	目的	フランス・イギリス欧州における古典テキストの電子化情報の調査研究。また日本語の可読化について国文学データベースの流通実験を行う	期 間	平成11年12月20日～平成11年11月10日	安藤 正人	渡航先	イギリス	目的	第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査	期 間	平成11年12月23日～平成11年12月23日	中村 康夫・伊藤 鉄也	渡航先	アメリカ合衆国	目的	米国、特にカリフォルニア大学における人文系マルチメディアアシステムの視察と相互利用の可能性についての討論
----	----------------------------	-----	-----------------------	-------	-----	-------	----	---------------------------------------	-----	-----------------------	-------	-----	------	----	---	-----	-----------------------	-------	-----	----	----	--------------------	-----	------------------------	-------	-----	-------	----	---------------------------	-----	-------------------------	------------	-------	-----	----	----	-----------------------	-----	-------------------------	-------	-----	-------	----	---	-----	-------------------------	-------	-----	------	----	----------------	-----	------------------------	--------	------	-----	---------	----	-----------------	-----	------------------------	------	-----	----	----	---------------	-----	-----------------------	-------	-----	------	----	---	-----	-------------------------	-------------	-----	---------	----	--	-----	-------------------------	-------	-----	-----------	----	---	-----	-------------------------	-------	-----	------	----	---------------------------------------	-----	-------------------------	-------------	-----	---------	----	--

公開データベースの無料化について

データベース室長 中村康夫

国文学研究資料館では、昭和六二年の早くから、マイクロ資料目録データベースと和古書目録データベースの二本を公開した。また、平成四年からは国文学論文目録データベースも公開した。いずれも、利用料金は安く設定されていたが、有料での公開となり、利用申請と許可が必要であった。

その形を、この平成一二年から見直すことになった。そもそも、目録データベースは、国文学研究資料館が蓄えている研究資料が有効に利用されるためのデータベースであり、資料本体（マイクロフィルム・和古書原本・国文学研究誌）のコピー請求が、そのデータベース利用の続きに予定された情報提供であったから、資料利用が有料である以上、目録検索は無料が適当ではないかと考えられること、また、いわゆる二〇〇〇年問題で課金システムにプログラム修正の必要が生じること、などがあり、この時期に無

料化することが、すべてに有効であることがわかったので、この一月から、目録データベース三本は無料で利用できる形にした。

ホームページ (<http://www.nij.ac.jp>) から入って、電子資料館から公開データベースをたどっていくと、検索に入っていくために必要な誰でも使える情報が示される。

この改訂により、申請・許可は必要なくなった。大いに利用していただきたい。

原典講読セミナー刊行中

毎年夏に行われる原典講読セミナーの活字化。既刊四冊。

① 近世宮廷の和歌訓練 上野洋三

—「万治御点」を読む—

② 「とはすがたり」のなかの中世

—ある尼僧の自叙伝— 松村雄二

③ 百首歌—祈りと象徴— 浅田徹

④ 江戸時代の漁場争い 安藤正人

—松江藩郡奉行所文書から—

続刊は以下の通り。

⑤ 外国人のことは(仮題)谷川恵一

いずれも臨川書店からの刊行で、

①〜③は二、四〇〇円、④は二、二〇〇円(本体価格)です。

なお、これ以前のは平凡社

より「セミナー」「原典を読む」と題して以下の通り刊行されてい

ます。(本体価格①〜⑨一、九四二円、⑩一、六〇〇円、⑪二、〇〇〇円)

① 浮世風呂・浮世床 (本田康雄)

② 「書」の秘伝 (新井栄蔵)

③ 千載集 (松野陽一)

④ 古文書が語る近世村人の一生 (森安彦)

⑤ 蚕の村の洋行日記 (丑木幸男)

⑥ 百人一首 (松村雄二)

⑦ 一休ばなし (岡雅彦)

⑧ 文科系のための情報検索入門 (安永尚志)

⑨ 京都学の古典「雍州府志」 (立川美彦)

⑩ 国文学電子書齋術 (中村康夫)

⑪ 「夜明け前」の世界 (高木俊輔)

国文学研究資料館 原典講読セミナー①



近世宮廷の和歌訓練

「万治御点」を読む

上野洋三

臨川書店

国文学研究資料館 原典講読セミナー④



江戸時代の漁場争い

松江藩郡奉行所文書から

安藤正人

臨川書店

利用者へのお知らせ

◆サービス区分変更について

このたび、次の所蔵者のサービス区分が変更になりましたのでお知らせいたします。いずれも閲覧のみ(複写不可)でしたが、複写可能になりました。

・東奥義塾高等学校(E→A)

E(閲覧のみ、複写不可)から

A(複写可、要事後報告)に。

・北方文化博物館(E→C)

E(閲覧のみ、複写不可)から

C(複写可、要事前許可)に。

◆「マイクロ資料目録」刊行のご案内

このたび「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九九年」(第二冊目)が刊行されましたのでご案内します。

収集したマイクロ資料のうち、平成一一年度に整理が終了した三七所蔵者(文庫)分、六、五六四点をとりまとめ冊子体にしたものです。収録所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。なお、*印は今回新たに収録した所蔵者名です。

文庫No. 所蔵者

- 7名古屋大学附属図書館(神宮皇学館文庫)
- 11京都大学文学部(頼原文庫)

開室及び休室日一覧 (12.4.1~12.9.30)

○印は休室日

■ 閲覧時間
9:00~17:00

■ 複写受付時間
9:30~15:30

4							5						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
②	3	4	5	6	7	⑧	⑦	8	9	10	11	12	⑬
⑨	10	11	12	13	14	⑭	⑭	15	16	17	18	19	⑮
⑯	17	18	19	20	21	⑰	⑰	22	23	24	25	26	⑱
⑳	24	25	26	27	⑳	㉑	㉑	29	30	㉒			㉓

6							7						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
④	5	6	7	8	9	⑩	②	3	4	5	6	7	⑧
⑪	12	13	14	15	16	⑫	⑨	10	11	12	13	14	⑬
⑬	19	20	21	22	23	⑭	⑭	17	18	19	20	21	⑮
⑮	26	27	28	29	⑯	㉑	⑯	25	26	27			㉒

8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
⑥	7	8	9	10	11	⑫	③	4	5	6	7	8	⑨
⑬	14	15	16	17	18	⑭	⑩	11	12	13	14	15	⑮
⑱	21	22	23	24	25	⑲	⑰	18	19	20	21	22	⑳
㉑	28	29	30	①		②	㉑	25	26	27			㉒

16 北海学園大学附属図書館(北郷文庫)

33 東洋文庫

49 岩国徴古館

88 東京芸術大学附属図書館

92 上田市立図書館(花月文庫)

93 上田市立図書館(花春文庫)

99 高知県立図書館(山内文庫)

214 西尾市岩瀬文庫

225 University of California, Berkeley

229 鶴岡市郷土資料館

255 新城ふるさと情報館(牧野文庫)

257 大和文華館

272 弘前市立図書館

277 園部町教育委員会(小出文庫)

278 大須文庫

281 盛岡市中央公民館

296 尊経閣文庫

298 茨城県立歴史館

303 金沢市立玉川図書館(藤本文庫)

305 愛知県立大学附属図書館

312 正教蔵文庫

321 鎌田共済会図書館

322 四国大学附属図書館(凌霄文庫)

324 新潟大学附属図書館(佐野文庫)

325 石川県立図書館(李花亭文庫)

326 名古屋博物館

330 長野県短期大学附属図書館

335 *富山県立図書館(中島文庫)

336 岩手県立図書館

338 *杵築市立図書館

339 *篠山市教育委員会(青山歴史村)

345 *宮崎文庫記念館

347 糸魚川市歴史民俗資料館

349 *長崎大学附属図書館

76 益田家

◆「古典講演シリーズ4」刊行のご案内

このたび臨川書店より「古典講演シリーズ4」として「歌謡—文学との交響—」が刊行されましたのでご案内します。

本書には、当館主催の公開講演会の講演録を中心に、次の六編が収録されています。

・早歌と道行—菅原道真の旅を中心に— 外村南都子

・「宗安小歌集」実見—研究の再構築をめざして— 飯島一彦

・「田植草紙」歌謡の性格—研究史にそって— 友久武文

・琉歌の世界 池宮正治

・近世沖繩の和歌 嘉手苅千鶴子

・近世歌謡の絵画資料 小野恭靖

また近く「古典講演シリーズ5」として「物語の本文—伊勢と源氏—」も刊行の予定です。

なお、これまで刊行された「古典講演シリーズ」(臨川書店刊)は次のとおりです。

- ①「万葉集の諸問題」
- ②「詩人杉浦梅潭とその時代」
- ③「商売繁昌—江戸文学と稼業—」

平成12年(2000年)度

春季学会

①事務局 ②開催日 ③会場
(詳細は当館ホームページ参照)

解釈学会

①〒170-0004 豊島区北大塚3-29-2
㈱教育出版センター内 03-5394-
1203 ②8月23日 ③さいたま文学館
副点語学会①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-
10 fax 03-3487-4891 ②5月26日

③青山学院大学

芸能史研究会

①〒602-0855 京都市上京区河原
町荒神口下る上生洲町221キトウ
ビル303号 075-251-2371 ②6月
11日 ③京大会館(予定)

国語学会

①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東
京大学文学部国語研究室内 03-
3812-2111 事務取扱 〒113-
0033 文京区本郷1-13-7 日吉ハ
イツ404 03-5802-0615 ②5月
27・28日 ③専修大学生田校舎
古事記学会①〒466-8666 名古屋市長和区八
事本町101-2 中京大学文学部国
文学研究室内 052-832-2151内
6206 ②6月10～12日 ③同志社
女子大学

上代文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-
25-40 日本大学文理学部国文学
研究室内 03-3329-1151(代) ②5
月27～29日 ③長野県短期大学
昭和文学会①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-
5 笠間書院内 03-3295-1331
②6月3日 ③相模女子大学
説話・伝承学会①〒604-8456 京都市中京区西ノ
京壺ノ内町8-1 花園大学丸山顯
徳研究室内 075-811-5181 ②4
月29・30日 ③花園大学
説話文学会①〒343-8511 越谷市南荻島3337
文教大学文学部田口和夫研究室
内 0489-74-8811(代) ②6月17～
19日 ③同朋大学

全国大学国語教育学会

①〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
神戸大学発達科学部内 078-803-
7718 ②8月3・4日 ③筑波大学
附属小学校・全林野会館

全国大学国語国文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-
6 畑山第1ビル ㈱おうふう気
付 03-3294-0857 ②6月3～5日
③國學院大學

中古文学会

①〒214-8580 川崎市多摩区東三
田2-1-1 専修大学文学部国文学
科研究室内 044-911-1230 ②5
月13・14日 ③大妻女子大学

中世文学会

①〒305-8571 つくば市天王台1-1-
1 筑波大学文芸・言語学系犬井
研究室内 0298-53-4126 ②5月
19～21日 ③埼玉大学

日本演劇学会

①〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
玉川大学文学部芸術学科演劇研究
室内 fax 042-739-8092 ②5月27
・28日 ③日本大学江古田校舎

日本歌謡学会

①〒182-0001 調布市緑ヶ丘1-25
白百合女子大学外村研究室内
03-3326-5050 ②5月27・28日
③関西外国語大学

日本近世文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-25-
40 日本大学文理学部国文学研究
室内 03-5317-9706 ②6月24・25
日 ③東京大学本郷キャンパス

日本近代文学会

①〒102-8357 千代田区三番町12
大妻女子大学文学部須田研究室
内 03-5275-6074 ②5月27・28
日 ③大妻女子大学

日本言語学会

①〒602-8048 京都市上京区下立
売通小川東入 075-415-3661 ②
6月17・18日 ③千葉大学
日本口承文芸学会①〒150-8440 渋谷区東4-10-28
國學院大学文学部伝承文学研究
室(野村純一)内 03-5466-0224
②6月3・4日 ③千葉大学

社団法人 日本語教育学会

①〒101-0065 千代田区西神田2-4-
1 東方学会新館 03-3262-4291
②5月20・21日 ③大東文化大学
日本国語教育学会①〒112-0012 文京区大塚3-29-1
日本教育研究連合会第3研究室内
03-3941-3420 ②8月5・6日 ③
文京区シビックホールほか

日本社会文学会

①〒102-8160 千代田区富士見2-17-
1 法政大学80年館610川村研究
室 03-3264-9760 ②6月24・25日 ③
法政大学市ヶ谷キャンパス

日本比較文学会

①〒565-0043 豊中市待兼山町1-5
大阪大学文学部内藤高研究室内
06-6850-6111(代) ②6月3・4日
③大手前大学

日本文学協会

①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-
10 03-3941-2740 ②7月2日 ③
大阪成蹊短期大学

日本文学風土学会

①〒102-8336 千代田区三番町6 二
松学舎大学文学部国文学科研究
室 03-3261-7406 ②6月10・11
日 ③二松学舎大学千代田校舎

日本文芸研究会

①〒980-8576 仙台市青葉区川内
東北大学文学部国文学研究室内
022-217-5957 ②6月10・11日
③東北大学

日本文体論学会

①〒110-0004 台東区下谷1-5-34
㈱三修社内 03-3842-1711 ②6
月10・11日 ③明治大学

日本方言研究会

①連絡先1 〒192-0397 八王子市
南大沢1-1 東京都立大学国語研究
室内日本方言研究会幹事 0426-77-
2135 連絡先2 〒115-8620 北区
西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付
日本方言研究会幹事 03-5993-7630
②5月26日 ③専修大学生田校舎

表現学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-
6畑山第1ビル2階 03-3295-8774
②6月3・4日 ③岡山理科大学

仏教文学会

①〒603-8143 京都市北区小山上総
町 大谷大学石橋義秀研究室内 075-
432-3131 ②7月1・2日 ③立教大学
美夫君志会①〒466-8666 名古屋市長和区八
事本町101-2 中京大学文学部国
文学研究室内 052-832-2151 ②
7月8・9日 ③中京大学国文学研究資料館報 第五四号
平成十二年三月発行
編集・発行者
国文学研究資料館
東京都品川区豊町一丁目一六〇
郵便番号一四二一八五八五
電話(三七八五)七一一一
FAX(三七八五)七〇五一
URL: http://www.nijiac.jp/
印刷 株式会社三協社